

基礎情報

No. 416	名称 せんせきひ
不明	戦跡碑

建立年月日 1979(昭和54)年3月	改修・移設等歴 —
------------------------	--------------

所在地番 渡嘉敷村字阿波連渡嘉志久原876	座標 26.180534	127.349962	地目 保安林	地積 (㎡) 8991.00
--------------------------	-----------------	------------	-----------	-------------------

規模(幅M×奥行D×高Hcm)
 [主碑]全体:220*116*224、碑身:220*27*173、脚:37*116*72/[由来記碑]碑身:201*101*11、台座:228*132*89、

素材
 【主碑】碑身:自然石(島内産種類不明)ピシヤン仕上、脚:鉄筋コンクリート造+玉石練張り仕上、基壇:コンクリート/[由来記碑]碑身:白御影石磨き仕上、台座:鉄筋コンクリート造+玉石練張り仕上

建立者 戦友会	管理者 不明
------------	-----------

碑文等

【主碑】
 <前面>戦跡碑
 <後面>海上挺身第三戦隊/海上挺身第三基地大隊/昭和五十四年三月建立

【由来記板】
 <前面>ここに記すのは、昭和二十年(一九四五年)この島に於いて戦われた激しい戦闘と、島民の死の歴史である/大東亜戦争の最後の年の三月二十三日より、この渡嘉敷島は、米軍機の執拗な空爆と、機動部隊艦艇からの艦砲射撃にさらされた。山は燃え続け、煙は島を包んだ。当時島にあったベニヤ板張りの船を利用した、夜間攻撃用の特攻船艇部隊は、出撃不可能となり、艇を自らの手によって自沈するようにとの命令を受けた。こうして、当時、島にあった海上艇進第三戦隊、同基地隊などの将兵三一五名は、僅かな火器を持っただけで、島の守備隊とならざるを得なかった。/三月二十七日、豪雨の中を、米軍の攻撃に追いつめられた島の住民たちは、恩納河原ほか数か所に集結したが、翌二十八日、敵の手に掛かるよりは自らの手で自決する道を選んだ。一家は或いは、車座になって手榴弾を抜き或いは力ある父や兄が弱い母や妹の生命を断った。そこにあるのは愛であった。この日の前後に三九四人の島民の命が失われた。/その後、生き残った人々を襲ったのは激しい飢えであった。人々はトカゲ、ネズミ、ソテツの幹までを食した。死期が近づくと人々の衣服の縫い目にたかっていたシラミはいなくなり、その代わり、まだ辛うじて呼吸を続けている人の眼に、早くもハエが卵を生みつけた。/三一五名の将兵のうち一八名は栄養失調のために死亡し、五二名は米軍の攻撃により戦死した。/昭和二十年八月二十三日、軍は命令により降伏した。/「八月二十日、第一中隊前進陣地ニ於テ、各隊兵器ヲ集積シ、遙カ東方皇居ヲ拜シ、兵器訣別式ヲ行フ。太陽ハ輝キ、青イ空、青イ海、周圍ノ海上ニハ数百ノ敵艦艇ガ静カニ遊ビ、或ヒハ碇泊中ナリ、唯茫然、戦ヒ既ニ終ル」/(陣中日誌より)/昭和五十四年三月/曾野綾子撰

写真

